

発刊日：平成 25 年 8 月 9 日

発行元：認知症疾患医療センター&認知症コールセンター（千種区西部いきいき支援センター）

協同で発行しています！

いよいよ夏本番となりました。今年も猛暑日が続いており、連日のように熱中症のニュースが流れていますね。熱中症対策にはこまめな水分補給が大切と言われていますが、そのタイミングがとても重要のようです。のどの渇きを感じた時は、すでに身体の水分が失われている状態のため“のどが渇いた”と感じる前に水分補給をすることが大切なのです。

さて、認知症でも同じように、症状が進行する前に対策をとることが大切と言われています。そこで今回は、早期診断、早期治療の必要性について詳しくご紹介します。その他には、認知症コラムや講演会等の行事予定を掲載しておりますので、是非ご覧ください。



なぜ、認知症の早期診断・早期治療は大切なのか？

名古屋市において、認知症疾患医療センターの運営事業が始まってから 1 年半が経過しようとしています。現在は、名鉄病院（西区）・まつかげシニアホスピタル（中川区）・守山荘病院（守山区）の 3 箇所が指定を受け、日々認知症疾患のある方々の診療にあたっています。

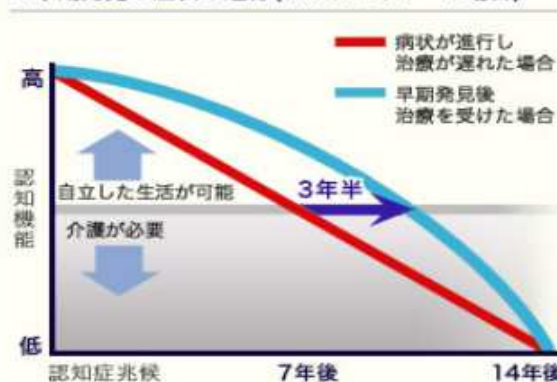
さて、今回は認知症医療でとても重要と言われる早期診断・早期治療を目的とした鑑別診断についてお話ししたいと思います。認知症とは、脳の病気により記憶力や判断力などが低下することで、日常生活に支障が出ている状態を言います。認知症の中には治療可能なものや、発症を予防できるものもあります。しかしながら、たとえ治る認知症でも治療が遅れば完全に元には戻らないこともあります。また、現在のところ根治が望めない場合でも進行を遅らせたり、部分的に症状が改善するなど、適切な対応により症状が軽減することもあります。

ある臨床データでは、早期発見後に治療を受けた場合と、症状が進行し治療が遅れた場合を比較したときに、自立した生活が可能な日数には 3 年半の開きがあると報告されています。また早期診断・早期治療は本人の治療効果だけではなく、早期発見し治療を受けることで介護者は、一人で不安な気持ちを抱えこまず相談場所を見出すことが出来るようになり、認知症介護に必要な情報を収集することができます。

前述したとおり認知症は「記憶力が低下する」「判断力が低下する」などだけではなく、日常生活に支障が生じている状態です。受診が遅れ、家族や近隣住民とトラブルになり、生活の範囲を狭めてしまう場合もあり、そういうケースを目の当たりにすると非常に心が痛みます。

「認知症になっても安心して生活できる地域」をつくっていくためにも「あれ、おかしいな？」と思った際は、早めに医療機関へ相談してください。

■早期発見と症状の進行（アルツハイマーの場合）



*Kinosian, B.P., et al, J Am Geriatr Soc 48:631-8, 2000.
*Farlow, M.R. and Lilly, M.L, BMC Geriatr, 5 (1):3, 2005.



認知症コラム NO.2

「認知症の薬について」

名鉄病院認知症疾患医療センター長 宮尾眞一

アルツハイマー病に対する認知症薬は2011年に新薬が3種類認可されました。それまで認知症の薬といえばドネペジルしかない状態が10年近く続いていました。ただ海外ではこれらはドネペジルとほぼ同時期に発売されていて本当は新しい薬ではありません。次の新薬はしばらく出ないようですので当面この4剤でやりくりしていくことになります。

認知症薬は大きく2つに分類されます。ドネペジル、ガランタミン、リバスチグミンの3剤は脳内のアセチルコリンという物質を増やし注意力や意欲を高めます。同じ作用の薬は併用できないため3剤から1つを選びます。効果はほぼ同等とされていますが剤型や服薬回数などが異なり作用も少し違うので患者さんごとに最適な薬を選択します。一方、メマンチンはグルタミン酸の受容体に拮抗する薬です。グルタミン酸は脳内で車のアクセルのような作用をしていますがこの薬を使用すると穏やかになることが多いようです。他の3剤と作用が異なるため併用が可能です。

私はドネペジルもない1992年から認知症を診療していますが当時と比べると今の薬で進行を遅らせているという確かな実感があります。ですから少しでもよい状態を維持するために早期の治療をおすすめします。また治療に関わることで介護される方も認知症の知識を深める機会が増え、適切な対応を身につけることで将来周辺症状が出現する可能性も低くできると思います。



問合先及び認知症に関する相談窓口

認知症コールセンター ☎052-763-1332

認知症の症状や介護等に関する様々な相談

認知症疾患医療センター

専門医療、鑑別診断と治療、急性期対応等に関する相談

◆名鉄病院 ☎052-551-2802

◆まつかげシニアホスピタル ☎052-352-4165

◆守山荘病院 ☎052-795-3560



認知症関係の行事予定

◆9月28日(土) 13時30分～15時

「認知症サポーター養成講座」

場所：昭和区社会福祉協議会 2階研修室

内容：認知症キャラバンメイトを講師に、認知症についての理解と、認知症の方への接し方について学びます。

問合先：昭和区西部いきいき支援センター
Tel052-884-5513

◆10月1日(火) 13時30分～15時

「認知症啓発講演会」

場所：守山文化小劇場（アクロス小幡3階）

内容：「認知症予防～病気を寄せ付けない足をつくる～」講師：湯浅景元氏（中京大学スポーツ科教授）

問合先：守山区東部いきいき支援センター
Tel052-758-2013

◆10月26日(土) 13時～16時(予定)

「千種区市民シンポジウム」

場所：千種区役所講堂

内容：若年性認知症について熊本大学の池田学先生の講演。シンポジウムなど。

問合先：千種区西部いきいき支援センター
Tel052-763-1530

◆10月27日(日)

13時30分～15時30分

「若年性認知症に関する啓発講演会」

場所：千種区役所講堂

内容：滋賀県で若年性認知症自立型デイサービス「もの忘れカフェ」を開設されている藤本クリニック藤本院長の講演。

問合先：千種区西部いきいき支援センター
Tel052-763-1530

◆10月29日(火) 10時～11時30分

「認知症サポーター養成講座」

場所：南区在宅サービスセンター研修室（区役所5階）

内容：あなたも認知症サポーターになってみませんか！受講後に、オレンジリングをお渡しします。

問合先：南区南部いきいき支援センター
Tel052-819-5050

◆11月9日(土)

13時30分～15時30分

「寸劇および“回想法”についての講演会」

場所：中区役所6階・大会議室

内容：寸劇（めいらく寸劇グループ）・日本福祉大学・来島修志氏の講演。

問合先：中区いきいき支援センター
Tel052-331-9674

◆11月15日(金)～17日(日)

10時～15時(時間は予定)

「天白介護フェア～保健・医療・福祉情報展(仮称)」

場所：天白区役所講堂

内容：医師会、福祉事業者、保健所などが体験コーナーなどを設けます。講演会や「おかえり支援事業模擬訓練」も開催予定です。

問合先：天白区東部いきいき支援センター
Tel052-809-5555